

2020. 3. 5

畑 啓之

「悪い情報は速やかに上申」 後藤田正晴の危機管理の要点 備えて何も起こさず

後藤田五訓が紹介されている。その1からその5まで、危機管理はこうであらねばならないと、正に五訓である。危機管理に努め、その結果、重大事象に至らなければ幸いとする。

この言葉を現在進行中の「新型コロナウイルス」のケースに当てはめてみるとどうなるか。

その1 省益を忘れ、国益を思え

内閣は必至で今回の流行を食い止めようとしている、と見受けられる。これに対して、野党がどこまで協力的であるのか。これは見る人によって評価が異なるので、ここまで。

その2 悪い本当の事実を報告せよ

現状は把握できているようだが、PCR 検査の点数が増えない理由や、マスクの流過程の把握等、国民一丸となった活動にはこの精神がまだ落とし込めていない。

その3 勇気をもって意見具申せよ

危機管理の立場から。小中高校の臨時休校が安部首相の暴走であるとの意見はでたが、今どうすべきであるかの意見具申は出てきていないように感じている。

以下、略。

神戸新聞 2020.3.5

元副総理、後藤田正晴さんは「カミソリ」と呼ばれた。判断力にすぐれていたからだ。中曽根内閣での官房長官時代、部下へ示した仕事の心得は、「後藤田五訓」として語り継がれる◆その1、省益を忘れ、国益を思え。その2、悪い本当の事実を報告せよ。その3、勇気をもって意見具申せよ。その4、自分の仕事ではないと言わなれ。その5には、決定が下ったら従い、命令は実行せよ◆切れ者・後藤田さんらしいのは2、3番目だろう。悪い情報を踏まえないと正しい判断はできない。だから勇気をもって伝えろ、と説いている。仕事についての戒めだが、危機管理のありようとしてもうなずける◆新型コロナウイルスの感染者が千人を超えた。感染者が出た兵庫県内の自治体だけでなく、すべての市や町、保健所、学校、会社：いや社会を支えているあらゆる組織や団体が今、ピリピリしている。危機管理という難しい応用問題と向き合っている◆その道しるべと思つて後藤田五訓を読み返すうち、勝手に一つ加えたくなった。その6、うそをつくなかれ。トイレトーパーが品薄になると、誤った情報を流した愚か者がいる。どんなうそも、組織を間違つた方向へ導き、みんなの不安を膨らませる◆冷静に、努めて冷静に。 2020.3.5